

# 女性のつながりサポート支援事業【岐阜県】

## 地域の実情と課題

- ◆地域の実情
  - 新型コロナウイルス感染症の拡大前に比べ、全世代において、不安を抱える女性が増加している。
- ◆課題
  - コロナ禍で社会との絆・つながりが薄くなったことにより、さまざまな不安を抱える女性に対して必要な支援が届いていない。

## 目的・目標

- さまざまな不安を抱える女性が、孤独・孤立に陥らないよう、訪問支援や居場所づくりを行い、必要な支援につなげる。
- 意見交換会参加者150名
- 相談件数50件

## 事業の特徴

- さまざまな不安を抱える女性が、社会との絆・つながりを回復することができるよう、NPO等の知見を活用したきめ細かい支援事業を実施した。
- 訪問支援
- 居場所の提供
- 相談窓口の開設
- 生理用品の配布
- 意見交換会(書面開催)

## 連携団体

- ◆清流の国ぎふ女性の活躍推進会議
- 【経済・各種団体】  
県経営者協会、県経済同友会、県建設業協会、県森林施業協会、  
県商工会議所連合会、県商工会連合会、県中小企業団体中央会、  
県農業協同組合中央会、日本青年会議所東海地区岐阜ブロック協議会
- 【行政】  
岐阜労働局、中部経済産業局、県市長会、県町村会
- 【その他】  
NPO代表、企業経営者・人事担当者、学識経験者 他
- 【委託先】  
(特非)ぎふNPOセンター

## 事業の効果

- 支援にたどり着けない女性へ支援を届けるため、連携支援団体等のSNSでの広報等、本事業を知らない方への周知・啓発に注力した結果、予想を上回る支援結果に繋がったと考える。本事業実施団体による知見を活かし、さまざまな不安に対応した支援を実施することができた。また多くの団体間での連携を図り、支援者を必要な支援につなぐことができた。
- 意見交換会参加者131団体／150名(書面開催)
- 相談件数2025件／50件【達成】

## 今後の課題

- 相談内容は、子育て、困窮、DV、人間関係、就労と多岐にわたるため、広範囲での団体間の連携をさらに強化することで支援者をしかるべき支援につなげていく必要がある。また、支援者を継続的に支援する仕組みを作っていく必要がある。

# 事業の概要

## ①訪問支援

さまざまな不安を抱える女性のもとを訪問。お話しをうかがいながら必要な支援につながるようサポートを実施。

件数：683件

## ②居場所の提供

さまざまな不安を抱え、孤独・孤立を感じている女性に複数の人が集まる居場所を提供。

件数：893件

## ③生理用品の配布

自宅への郵送及び各団体窓口にて必要な方へ生理用品を提供。インターネット及び窓口にて申請を受付。

件数：2,025件（うちネット申請：257件）

## ④相談窓口

ぎふNPOセンターにて相談窓口を開設。各種相談への対応を実施。

場所：ぎふNPOセンター（岐阜市藪田南5-14-12 シンクタンク庁舎3階）

日時：毎週水・土（14:00～16:00）

件数：192件

## ⑤意見交換会

実施団体が受けた相談内容や今後の課題について、関係機関に対し支援体制の連携を図る。新型コロナウイルス感染症対策のため書面開催にて実施。

送付先団体数：131団体（県内市町村、社会福祉協議会等）

